

## 安藤内

《小中》

平藤内屋敷の西北に、アンツチ(安藤内)と呼ばれている所がある。今は一面の田圃になつてゐるが、昔、屋敷があつたといわれる。一番最後に残つた家は、私の先祖の家だという。一軒で、平藤内に移つた。『白河風土記』には、その頃、四軒あつたと記録されている。また梓衝城之内の安藤家の先祖は、この安藤内より出たといわれ、その墓が附近にあるという。昔、城之内の安藤家の子孫たちが、小中山に草刈に来るとこの前を通る時は、いつも馬よりおりて(下馬)通つたという。

この墓場はどこだろうか。安藤内の北の山の中腹、旧天王様跡の西に小さな円墳群がある。この前を通る山道(現在完全な林道)は、城之内、下小中より来る古い草刈道なので、ここではなかるうか。

(話者 古川 明)

## 古屋敷

《小中》

平藤内の西にある一角を古屋敷と呼んでゐる。いつ頃屋敷があつたのかは分からない。またここに張り出した山の頂上には広い平らな所がある。ここはおやかつ様(御館様)のいた所だろうといわれている。また山の西の沢はカーズチと呼んでゐる。何年か前ここを開田した時、古い鍛冶屋のふいごの口や、土器などが出てきたので、鍛冶内の訛りであろうか。古屋敷の畠からも土器(土師器)が見つかつてゐる。

(話者 古川 明)